

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

70

秋の企画展

笑いの想像力

笑わせるヒトと笑うモノの博物誌

福島県立博物館



「笑い」って何だろう？

みなさんは、「笑い」について改めて考えたことがありますか？

企画展「笑いの想像力―笑わせるヒトと笑うモノの博物誌―」は、みなさんといっしょに「笑いとは何か」を考えてみることを目的とした展覧会です。

私たち人間は、感情を表わす一つの手段として「笑い」をもっています。おもしろいときには大声で笑い、うれしいときには自然と笑みを浮かべます。一方、かなしくても無理に笑いをつくることもあります。一言で「笑い」といっても、そこにはいろいろな感情や思いが含まれています。

さらに、もう少し深く考えてみると、人は、同じ時に、同じ場所で、同じものを見たり聞いたりして、みんなが同じように笑うわけではないことに気づくのです。

どうも「笑い」というものは、人や場面、さらには地域や時代によっても違うようです。そして、単に自分が笑うというだけではなく、なりわいとしてあるいは祭りや芸能の時空において、他人を「笑わせる人」が存在することも見逃すわけにはいきません。

それは「笑い」が、人間は笑うという生理的な現象だけかたづけられない、社会や歴史の中で育まれてきた「文化」と深く関係していることを物語っているのです。

この展覧会では、縄文時代から現代まで、それぞれの時代で「笑い」がどのように表現され造形化されてきたのか、それぞれの地域に伝承されてきた民俗世界にどのような「笑い」があったのか、日本人の「笑い」をめぐる多様な想像力に迫ってみたいと思います。

【展示構成】

中テーマ1 「笑い」の造形

日本歴史を通観しながら、それぞれの時代によって笑いがどのように認識され、造形化されてきたかを紹介してゆく。

中テーマ2 笑いを描く・笑いを読む

近世から近代にかけて、笑いは、出版や印刷技術を介して、庶民生活の中に受容されてゆく。こうしたメディア文化を通して展開した笑いを描くこと、一方それを見、読むことによる笑いの文化を明らかにしてゆく。

中テーマ3 「福の神」の正体―富と笑い―

エビス・大黒に代表される福神は、深く日本人の信仰に定着している。この信仰には、笑いが富と結びつくという宗教的特質を見いだすことができる。

福の神の信仰の地域的諸相を明らかにしながら、福神信仰の笑いの意味と役割を探ってゆく。

中テーマ4 道化と笑い―笑わせるヒトと笑うヒト―

日本各地に伝承されてきた民俗芸能や祭りの中には、ときおり、主人公とは全く性格を異にする異装に身を包み、滑稽な役を演じる人物が登場する。私たちは、こうした存在を広く「道化」という概念でとらえてきた。こうした

笑いの想像力

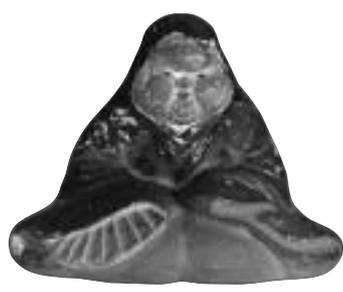
秋の企画展

笑わせるヒトと笑うモノの博物誌

会期 平成15年10月11日(土)~12月7日(日)



「福富草紙」
(兵庫県 兵庫県立歴史博物館)



お多福像
(福島県 個人蔵)



木喰仏「弘法大師」像
(新潟県 個人蔵)



舞楽面「新鳥蘇」
(奈良県 春日大社) 重文

表紙写真は、笑う土偶 (山口県埋蔵文化財センター明地遺跡出土) 「分銅型土製品」弥生中期後半

た道化の役割が、民俗社会においてどのような意味と役割を果たしていたのかを探ってゆく。

〔主な展示資料〕

- 岩偶（秋田県 森吉町教育委員会 白坂遺跡出土）県指定
- 土面（大阪府 大阪府文化財センター 仏並遺跡出土）
- 笑う土偶（山口県 山口県埋蔵文化財センター 明地遺跡出土）「分銅型土製品」県指定
- 笑う埴輪像（埼玉県 長瀨総合博物館）県指定
- 舞楽面「新鳥蘇」（奈良県 春日大社）重文
- 舞楽面「胡徳楽」（奈良県 手向山八幡宮）重文
- 伎楽面「師子児」（奈良県 東大寺）重文
- 古能面・神事面（栃木県 日光山輪王寺宝物殿）県指定
- 能面（岩手県 盛岡市中央公民館）
- 舞楽面（青森県 櫛引八幡宮）県指定
- 「寒山拾得図」（福島県 天寧寺）
- 木喰仏（新潟県 個人蔵）
- 円空仏（埼玉県 個人蔵）県指定
- 「福富草紙」（兵庫県 兵庫県立歴史博物館）
- 「百器夜行図」（兵庫県 兵庫県立歴史博物館）
- 「百鬼夜行図巻」（大阪府 大阪市立美術館）
- 「百鬼夜行図巻」（京都府 国際日本文化研究センター）
- 「万歳図」（福島県 個人蔵）
- 判じ物（東京都 たばこと塩の博物館）
- 子供遊絵（東京都 町田市立博物館）
- 滑稽画（宮城県 仙台市博物館）
- 石版画（新潟県 鮎黒船館）
- 浮世絵（神奈川県 神奈川県立歴史博物館）
- 「風流三代枕」（東京都 個人蔵）
- 加茂人形・嵯峨人形（埼玉県 笛吹記念人形美術館）
- お多福人形（京都府 博物館さかの人形の家）
- 「エベッサン」（千葉県 国立歴史民俗博物館）
- 「百福図」（東京都 個人蔵）
- 「恵比寿図」（兵庫県 堀内冷糸びすコレクション 白鹿記念酒造博物館寄託）
- のろま人形（新潟県 痴娼の家）
- 鶴岡天満宮祭礼絵馬（山形県 鶴岡天満宮）

企画展《笑いの想像力》は平成一五年一〇月一日（土）から二月七日（日）まで開催しています。
 企画展観覧料 一般・大学生五〇〇円（四〇〇円）高校生三〇〇円（二四〇円）小・中学生二〇〇円（一六〇円）（ ）は二〇名以上の団体の場合の料金です。

企画展関連行事のお知らせ

企画展記念講演会

「笑いの人類学と民族学」

講師 松井 健さん

日時 一〇月二二日（日）午後一時三〇分より

会場 当館講堂

（東京大学東洋文化研究所教授）

企画展記念公演

「笑いのパフォーマンス&トーク」

「マイム」

演者 里見のぞみさん

「白沢村の八田内の七福神踊り（ひょっとこ踊り）」

演者 八田内七福神保存会の皆さん

〈対談〉「笑いのダイナミクス」

パフォーマンスと民俗芸能

パフォーマンス・フェスタ主宰

星野 共さん（福島大学経済学部教授）

赤坂憲雄館長

日時 一一月二日（日）午後一時三〇分より

会場 当館講堂ほか

展示解説会

日時 一〇月一日（土）午後二時より

一一月二日（日）（含記念公演）

一一月八日（土）午後二時より

一一月二九日（土）午後二時より

一二月六日（土）午後二時より

講演要旨 企画展記念講演会・発掘調査成果報告会

平成一五年七月二日(月・祝)
平成一五年九月七日(日)

「日本列島発掘ものがたり」 講師 文化庁記念物課文化財調査官 玉田 芳英氏
「考古学が解き明かすふくしまの歴史」 講師 県内各地域の埋蔵文化財担当者

企画展記念講演会

「日本列島発掘ものがたり」

夏の企画展「発掘された日本列島二〇〇三」を記念し、「日本列島発掘ものがたり」と題し、講演会が行われました。講師は、今回の展覧会の実行委員会为中心的役割を果たしておられる、文化庁の玉田先生にお願いました。講演内容の概要は左記のとおりです。

全国で、毎年実施されている発掘調査の件数は約八〇〇〇件。そのなかで特に注目された発掘調査の成果を「発掘された日本列島展」で公開しています。本日は、このなかからおもな調査成果についてみていきたいと思えます。

まず、ねつ造問題で揺れ動いた旧石器時代についてですが、北海道白滝遺跡群を紹介し、遺跡がある白滝村は黒曜石の産出地として著名ですが、この遺跡からは



黒曜石を材料とした石器が大量に出土しています。そして、石器を作る際に出る剥片を丹念に接合していくと、石を剥離していく順番とが、道具としてどのような石器を作っていたのかなど、当時の石器作りのようすがよくわかるわけです。

次に縄文時代ですが、福島市宮畑遺跡について紹介します。この遺跡は縄文時代中期から晩期にかけて営まれた集落の跡で、それぞれの時期に特徴的なムラのようなことが把握されています。この遺跡については、保存されることになっていきます。

弥生時代については、集落構造の特徴をみてもらうために、各地域の代表的な集落遺跡を中心にとりあげました。なお、最近、理化学的な年代測定法により、弥生時代の開始年代について、五百年さかのぼるという説が提示されましたが、これについては、今後考古学的な方法でさらに検証していく必要があると考えます。

古墳時代では、今回展示されています兵庫県茶すり山古墳について紹介します。この古墳は近畿地方最大の円墳で、未盗掘の状態で、豊富な副葬品が出土し注目を集めました。

古代では、奈良県明日香村で発見された飛鳥京跡苑池を紹介し、この遺跡からは、飛鳥時代の池と水路などからなる庭園の跡が発見されています。これは宮殿に附属する公的な施設の一部と考えられています。最後に中・近世についてお話しします。ここで紹介し

ますのは、北海道上ノ国町の勝山館跡の調査成果です。この遺跡からは、これまでの調査で、丘陵に造成された約三〇〇軒の建物跡が発見されています。この集落は従来倭人だけの居住域と考えられてきましたが、出土遺物の特徴などから、ここでは、アイヌと倭人が共同生活を営んでいたのではないかと想定されています。このことは、近くにある夷王山墳墓群の調査成果からも裏付けられています。

発掘調査成果報告会

「考古学が解き明かすふくしまの歴史」

夏の企画展「発掘ふくしま3」を記念し、県内各地域の埋蔵文化財担当者の方々から、発掘調査の成果について、スライド等を使いながら報告していただきました。内容は左記のとおりです。

福島市宮畑遺跡について

齋藤義弘氏(福島市教育委員会)

いわき市平窪諸荷遺跡について

十島好一氏

いわき市教育文化事業(業団)

白河市舟田中道遺跡

と周辺の遺跡群

鈴木 功氏

(白河市教育委員会)

会津坂下町中平遺跡

について

吉田博行氏

(会津坂下町教育委員会)

城館研究の成果

鈴木 啓氏

(福島県考古学会会長)



鶴ヶ城におけるカモの数

古川裕司 自然担当

昨年の秋に、テレビ局から「ニュースで鶴ヶ城を取り上げるが、カモはどれくらいいて、いつ一番多くなるのか」と電話で問い合わせがありました。記録を見ながらの返答で要領をえないものになってしまいました。そこで、鶴ヶ城で見ることのできる代表的なカモ四種を表にまとめてみました。

留鳥のカルガモは、凍が凍結する一月に減少するものの、一〇月から三月にかけて多く見ることが出来ます。特に一月に多く見られます。表の期間で一番多くカウントしたのは、二〇〇三年の三月一〇日で、二二八九羽でした。繁殖の時期を迎えると少なくなり、特に六、八月は、一羽も確認できない日もあります。

冬鳥のカモでは、コガモが一番よく見られます。九月から五月にかけて見ることができ、やはり一月に少なくなるものの、一月から四月にかけてよく見ることが出来ます。特に二、三月が多く見ることができ、表の期間で一番多くカウントしたのは、二〇〇三年の三月一日で、三二四羽でした。また、鶴ヶ城では、亜種のアメリカコガモも稀に見ることが出来ます。二〇〇三年は、三月と四月に初確認しました。特に三月は初めて二個体を確認しました。



コガモのオス



カルガモ

次にオナガガモですが、見る確率としてはマガモの方が高いのですが、個体数の多さでは、コガモに次ぎます。一番多く見られる月は二月で、表の期間で一番多くカウントしたのは、二〇〇二年の二月一〇日で、一六六羽でした。最後にマガモですが、鶴ヶ城では個体数は多くありません。表の期間では、二〇〇二年の二月二日の三二羽がもっとも多い確認数です。このように、冬鳥のカモたちも種類によって、個体数のピークが違うのが、表から見とれます。繁殖地や越冬地の地理や気候などによって違ってくるものと考えられます。また、表では、雌雄の数を合わせていますが、冬鳥のカモ三種では、オスの方がメスよりも多くいるのが、記録からわかります。

さて、表の期間でカモ総数の一番多かったのは、二〇〇三年の三月一〇日で、一六八九羽でした。詳細は、カルガモ二二八九羽、コガモ三〇四羽、オナガガモ六〇羽、マガモ九羽、オシドリ二羽、マルガモ二羽、キンクロハジロ二羽、トモエガモ一羽です。

このように冬期間、カモたちが多く集まるのは、史跡公園でハンターに銃で撃たれる心配がないことと、市民が餌を与えたりすることが考えられます。しかし、フクロウやオオタカなどの猛禽類もあり、散乱したカモの羽を見かけることもあります。

市街地にある緑の浮島のような鶴ヶ城の自然が、よりよいものであるよう願っています。



マガモのオス



オナガガモのオス

鶴ヶ城におけるカモの数

	カルガモ	コガモ	オナガガモ	マガモ
2002年 1月	224 (515)	15 (42)	48 (69)	5 (10)
2月	837 (1170)	181 (227)	50 (90)	13 (23)
3月	591 (931)	75 (156)	1 (3)	3 (8)
4月	129 (256)	32 (64)		0 (2)
5月	18 (40)	4 (13)		
6月	1 (2)			
7月	8 (20)			
8月	33 (55)			
9月	122 (225)	0 (1)	0 (2)	0 (1)
10月	421 (688)	8 (21)	15 (25)	6 (17)
11月	1021 (1186)	34 (60)	59 (85)	14 (32)
12月	896 (1126)	41 (60)	114 (166)	9 (24)
2003年 1月	348 (594)	14 (48)	65 (135)	1 (4)
2月	640 (1060)	95 (267)	24 (47)	5 (18)
3月	914 (1289)	211 (314)	37 (103)	9 (13)
4月	132 (431)	37 (120)		1 (3)
5月	15 (22)	7 (19)		
6月	3 (6)			
7月	3 (10)			
8月	21 (35)			

注・表は二〇〇二年一月一日から二〇〇三年八月三〇日までの一七七回の観察記録をもとにまとめたものである。数字は一回の平均数で小数点第一位四捨五入。() の数字は最多確認数。

・少数飛来のカモに関しては、今回は触れなかったが、鶴ヶ城では観察を始めてからカモは約一七種を確認している。

・カウントは一人で行っているため、鳥の移動や多数時によってだぶりの可能性があり、多少の誤差はありうる。

一月三〇日(日) 午後一時半から
総合講座「シリーズ若松城を歩く7 鶴ヶ城の野鳥(野外)」を行います。実際にカモたちを見て歩きますので興味のある方は、ぜひご参加ください。

Q:春頃に「津田得民の仕事」という展示を見ました。そこで、金胎漆器というものが展示されていました。金胎とはどういうことですか？

A:「胎」ははらむという意味ですね。ここから外側を別のもので包まれた中身のことも指します。すると「金胎」は「外側を何かで包まれた金属」。「金胎漆器」は「金属を素地として外側に漆を塗った器」のことです。

漆工品の素地は、木材を使った木胎が一般的で、圧倒的に使用頻度の高いものですが、他にも竹を編んだ籃胎、和紙を素材とする紙胎、型に皮を張った漆皮、型に麻や芋麻などの布を張った乾漆などもあります。有名な正倉院に伝わる漆胡瓶は、細長い竹のテープを少しずつらしながら巻き上げて形を作ったものです。木材をくりぬ

金胎漆器

くの比べてかなり自由に形が作れる竹材だからこそ可能なフォルムなのです。漆皮や乾漆は、型に皮や布を張って乾いたものを型から外し、そこに漆を塗り重ねます。木胎のような強度はありませんが、成形がある程度自由にでき、軽いつ特徴があります。

金胎は、金属に漆を塗って表面を加熱して焼付けます。江戸時代には主に甲冑を作る際に使われていた技法です。甲冑の胴や小札という鉄の小板に、黒や朱などの漆を塗ってあるのがそうです。日本では、金属製の器を使うことが浸透、定着しなかったため、金胎漆器の需要も少なく、金胎の技法は、甲冑や茶湯釜の表面に色をつけるなど、一部で使われるのにとどまったのでしょう。

「ご覧になった「津田得民の仕事」展では、大正・昭和

期に活躍した会津の蒔絵師・津田得民の業績をご紹介しました。得民は、戦後の数年間会津で輸出漆器を制作していた「マルニ工芸」という会社の顧問をしており、ここで輸出漆器の図案を大量に考案しました。得民が描いたデザインの多くは、金属を素地とした漆器に蒔絵で描かれました。マルニ工芸は、船便で輸出される漆器が途中温湿度の変化によってくることがないように、木胎ではなく金胎の漆器を制作したのです。そこで、展示の一部で、得民の漆器図案とマルニ工芸の金胎漆器を並べてご覧いただいたのでした。

Q&A

回答者
美術担当
小林めぐみ

陶胎の素地は本郷焼でできており、本郷のやきものと会津のぬりものの合作ということになります。金胎漆器に比べますと、現存品も少なく、生産量も少なかったのではないかと考えられますが、会津の代表的な工芸が協力して作り上げたものが、一時期にせよ、日本の工芸品の顔として海外に輸出されていたというのは、何とも誇らしいことではありませんか。

博物館では、引き続きマルニ工芸制作の金胎漆器・陶胎漆器の調査を行っています。周辺にお心あたりがございましたら、是非お知らせください。



〔金胎漆器〕玉虫塗竹に雀蒔絵灰皿（個人蔵）



〔金胎漆器〕玉虫塗竹蒔絵パイブラック（個人蔵）

トピックス

移動博物館 田村地方の歴史

広い福島県、「県立博物館は遠くて行けない」という声も少なくありません。それなら、ということと、県立博物館では昨年度から移動博物館を開催しています。移動博物館では県内各地の博物館・資料館を会場に県立博物館の収蔵品の一部をご紹介します。昨年の白河市歴史民俗資料館に続き、今年の会場は三春町歴史民俗資料館です。県立博物館が収蔵する古代から近世の史料を中心に三春町歴史民俗資料館の資料を交え、田村地方の歴史にスポットを当てます。是非、お越し下さい。そして、次回は県立博物館にも足を延ばしてください。

また、会期中には列品解説、体験講座も予定しています。こちらにもご参加ください。

*主な出品資料

原始・古代

- ・ 西方前遺跡出土品
- ・ 原山一号墳 盾持ち埴輪

中世

- ・ 伊達政宗黒印状(天正一四年)
- ・ 蒲生源左衛門尉宛て豊臣秀吉朱印状
- ・ 雪村周継筆「蔬菜図」

近世

- ・ 『集古十種』
- ・ 松平容保所用能尽蒔絵煙草盆
- ・ 倉谷鹿山筆「関羽図」
- ・ 会津漆器
- ・ 文六焼

催し物

- 一〇月二五日(土) 午後一時半、列品解説
- 一一月二四日(月・祝) 午後一時半、

体験講座「原始・古代のワザに挑戦」



古代 原山一号墳 盾持ち埴輪



近世 松平容保所用能尽蒔絵煙草盆

冬の収蔵資料品展予告

『相馬・阿弥陀寺の宝物』
『明日』を見ていた昭和の記憶

相馬・阿弥陀寺の宝物

相馬郡鹿島町の阿弥陀寺は、相馬地方を代表する浄土宗の寺院で、室町時代初期の創建といわれています。当寺には秘仏で「程見の阿弥陀如来」といわれる善光寺式阿弥陀三尊像、「南無阿弥陀仏」の六字の名号を刺繍であらわした刺繍阿弥陀名号掛幅、地藏菩薩立像や法然上人像などの各種板木など、彫刻、絵画、工芸の多くの遺品が伝えられています。中世相馬の仏教美術の精華を、今回一括して展示します。



「明日」を見ていた昭和の記憶

ぼくのお父さんが子どもだった頃の今回の収蔵資料品展では、昭和三〇年代から四〇年代の日常の暮らしに関連した様々な資料を展示します。人々が「今日よりも明日」の豊かな生活をめざした時代。あのころの日々の生活のなかにあったモノやセピア色のワンシーンを、ひとりひとりの「暮らしの記憶」を呼び覚ます鍵としてご覧になってください。そして「懐かしい」思い出が持つ不思議な力を観覧された夜の家族団楽で体験してみてください。



タライで水遊び

冬の収蔵資料品展《相馬・阿弥陀寺の宝物》は平成二五年二月一六日(火)から平成一六年一月二五日(日)まで、《「明日」を見ていた昭和の記憶》は平成一六年二月七日(土)から三月二二日(日)まで
観覧料 常設展観覧料でご覧いただけます。

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「中世福島の信仰世界」
 会期 一〇月七日(火)から一二月(四日)まで
 「祈りと願い」
 会期 一二月(二日)から一二月(五日)まで

講演・講座

特別講座「ふるさとの文学 風土(フウツ)」
 「花月草紙 その人と文学」
 講師 当館名誉館長 高橋富雄
 日時 一〇月一〇日(金)午後一時半～二時半
 「文学展館銘」
 講師 当館名誉館長 高橋富雄
 日時 一一月一四日(金)午後一時半～二時半
 考古学講座
 「石匱丁をつくつてみよう」(実技)要申込
 講師 当館学芸員 藤原妃敏
 日時 一〇月一八日(土)午後一時半～三時
 「博物館を探検しよう」(実技)要申込
 講師 当館学芸員 田中 敏
 日時 一一月三三日(日)午後一時半～三時
 美術講座
 「福島の仏像³³」
 講師 当館学芸員 若林 繁
 日時 一〇月一八日(土)午後一時半～三時
 「うるしの技に挑戦¹」(実技)要申込
 講師 当館学芸員 小林めぐみ
 日時 一〇月一九日(日)午後一時半～三時
 「うるしの技に挑戦²」(実技)要申込
 講師 当館学芸員 大竹信一氏
 日時 一〇月二六日(日)午後一時半～三時
 「うるしの技に挑戦³」(実技)要申込
 講師 新生会会員 大竹信一氏
 日時 一一月九日(日)午後一時半～三時
 「うるしの技に挑戦⁴」(実技)要申込
 講師 新生会会員 大竹信一氏
 日時 一一月一六日(日)午後一時半～三時

「暮らしの中の美術⁵」
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ
 日時 一一月二二日(水)午後一時半～三時
 「暮らしの中の美術⁶」
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ
 日時 一一月二〇日(水)午後一時半～三時
 歴史講座
 「古文書入門⁷ 中世」
 講師 当館学芸員 高橋 充
 日時 一〇月二五日(土)午後一時半～三時
 「古文書入門⁸ 中世」
 講師 当館学芸員 高橋 充
 日時 一一月一五日(土)午後一時半～三時
 「古文書入門⁹ 中世」
 講師 当館学芸員 高橋 充
 日時 一一月二三日(土)午後一時半～三時
 総合講座
 「シリーズ若松城を歩く⁶ 発掘現場見学
 会(野外)要申込」
 講師 当館学芸員 他
 日時 一〇月二六日(日)午後一時半～三時半
 「シリーズ若松城を歩く⁷」
 講師 当館学芸員 古川裕司
 日時 一一月三〇日(日)午後一時半～三時半
 体験講座
 「わらぞうりをつくろう」(実技)要申込
 講師 技術伝承者 鈴木幸雄さん
 日時 一一月二二日(土)午前二時～午後三時
 「おちやをつくろう」(実技)要申込
 講師 当館展示解説員
 日時 一一月二〇日(土)午後一時半～三時半
 企画展示解説会
 「笑われるヒトと笑うモノの博物誌」
 講師 当館学芸員
 日時 一〇月二二日(土)午後二時～三時
 講師 当館学芸員
 日時 一一月一日(日)午前二時～三時
 講師 当館学芸員
 日時 一一月一日(日)午前二時～三時
 講師 当館学芸員

日時 一一月八日(土)午後二時～三時
 講師 当館学芸員
 日時 一一月二九日(土)午後二時～三時
 講師 当館学芸員
 日時 一一月六日(土)午後二時～三時
 企画展記念講演会
 「笑いの人類学と民族学」
 講師 東京大学東洋文化研究所 教授 松井 健さん
 日時 一〇月二二日(日)午後一時半～三時半
 企画展記念公演
 「笑いのパフォーマンス&トーク」
 マイク 演者 里見のぞみさん
 白沢村の八田内の七福神踊り
 演者 八田内七福神保存会の皆さん
 〈対談〉「笑いのダイナミズム」
 パフォーマンスと民俗芸能」
 星野 共さん(福島大学経済学部教授)
 赤坂憲雄館長
 日時 一一月二日(日)午後一時半～四時
 収蔵資料品展示解説会
 「相馬・阿弥陀寺の宝物」
 講師 当館学芸員 若林 繁
 日時 一一月二二日(日)午後一時半～三時

「機構」
 染織工芸家 山根正平さん
 日時 一〇月五日(日)午後一時半～三時
 「音語り」
 語り部 山田登志美さん
 日時 一〇月二三日(月)祝日午後一時半～三時
 日時 一一月二四日(月)祝日午後一時半～三時
 語り部 横山幸子さん
 日時 一一月二日(日)午前二時～正午
 「注連飾りをつくろう」
 技術伝承者 榊原源隆さん
 日時 一一月二三日(日)火祝日午後一時半～三時
 伝統技術実演

「須賀川の小旗づくり」
 技術伝統保持者 大野修司・大野広子さん
 日時 一一月三日(日)祝日午後一時半～三時
 やさしい展示解説会
 *展示解説員による常設展の案内です。六〇分程度。
 一〇月 五日(日)・二二日(日)・一九日(日)
 ・二六日(日)
 一一月 九日(日)・一六日(日)・二三日(日)
 ・三〇日(日)
 一二月 七日(日)・一四日(日)・二一日(日)
 *毎週日曜日午前二時からです。
 *行事等の詳細に關しましては、博物館ニ「1」
 ースやホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

一二月三日(月) 文化の日
 *小・中学生、高校生は、いつでも常設展が無料です。ただし、右の団体の引率者は事前(一週間前)の減免申請が必要です。

企画展無料開放日

一一月二日(土)～一一月七日(金)のぶくし
 実教育週間は、小・中学生、高校生にかぎり
 企画展も無料です。

一〇～二月の休館日

一〇月 六月(月)・一四日(火)・二〇日(月)
 ・二七日(月)
 一一月 四日(火)・一〇日(月)・一七日(月)
 ・二五日(火)
 一二月 一月(月)・八日(月)・一五日(月)・
 二二日(月)・二九日(水)
 年末年始
 一一月二八日(日)～一月五日(月)

実演
 場所 体験学習室 入場無料